## 1-4　DLL、その他必要な用語

圧縮、書庫、解凍、そして圧縮形式について学習しました。しかし、これだけではありません。圧縮にはDLLや関連づけなど聞き慣れない言葉がまだまだあります。

■DLL（ダイナミックリンクライブラリ　dynamic link library）

圧縮解凍ではしばしば「DLL」という言葉が使われます。「このツールにはDLLが必要」とか「DLLをインストールすることで対応」などと、表現されます。

このDLLも圧縮解凍をわかりづらくしている要因のひとつです。

DLLはアプリケーションをサポートするプログラムで、圧縮解凍では「圧縮エンジン」ともいわれます。

圧縮解凍ツールには主に2つの役割があります。ひとつは当然ファイルをコンパクトに圧縮する機能です。しかし、これだけでは私たちが利用できません。パソコン上に画面を開いて、ツールバーを示したり、メニューバーのコマンドを開いたりする操作をサポートする機能も必要です。前者は車でいえばエンジンにあたり、後者は操作部分であるハンドルやアクセルにあたります。裏で働く力持ちと、表の接客担当に分けることもできます。パソコンでは裏の力仕事を「エンジン」、表の操作担当や接客担当を「インターフェイス」と区別しています。

DLLはここでいう「エンジン」にあたるわけです。そして、圧縮解凍ツールは「インターフェイス」になります。

たとえば、圧縮解凍ツールの代表的なものである「LHAユーティリティ32」はインターフェイス機能しか持っていません。実際の圧縮や解凍機能はDLLが行うのです。LZH形式への圧縮と解凍をするDLLは「UNLHA32.DLL」です。LHAユーティリティ32はUNLHA32.DLLをインストールしないとLZH形式の圧縮と解凍ができません。また、ZIP形式の解凍を行うのは「UNZIP32.DLL」です。これも逆にいうと、UNZIP32.DLLがないとZIP形式の圧縮ができないわけです。

なぜ、このように機能を分けるのでしょうか。

分けた方が、効率的にプログラムを作成できるからです。DLLを追加することで、多くの形式に対応させることもできます。

もっとも、いくつものプログラムをインストールするのはめんどうですし、何よりも初心者にはわかりづらいことです。

このため、最近ではDLL機能（圧縮エンジン）をあらかじめ組み込んだツールがよく利用されています。たとえばWindows Meの「圧縮フォルダ」はDLLが必要ありませんし、「WinZip」もZIP形式の圧縮解凍ならDLL不要です。

また、「EXPLZH」はDLLが必要ですが、利用者が組み込むことなく自動的にインストールしてくれます（ただし、インターネットに接続されていること）。